

2017 年度水産海洋学会研究発表大会

期日：2017年11月16日（木），17日（金），18日（土），19日（日）

会場：広島市西区民文化センター（広島市西区横川新町6-1，JR 横川駅南口より約200m）

日程：

11月16日（木）

12:00- 受付開始

13:00-17:00 水産海洋地域研究集会 第18回広島湾研究集会「漁業の持続・発展のための物理・化学的アプローチ」

11月17日（金）

09:00- 受付開始

10:30-17:00 シンポジウム「生態系構造と食物網の視点から漁業生産を考える」

18:00-20:30 若手・女性・地域活性化委員会ナイトセッション「公設水産試験研究機関が収集・管理するデータ資源の利活用に向けて」

11月18日（土）

09:00- 受付開始

10:00-12:00 口頭発表，ポスター展示，機器展示

12:20-13:20 ポスター立会（奇数番号）

13:40-16:40 口頭発表，ポスター展示，機器展示

17:15-18:00 宇田賞受賞記念講演

19:00-21:00 懇親会

11月19日（日）

09:00- 受付開始

09:30-11:54 口頭発表，ポスター展示，機器展示

12:20-13:20 ポスター立会（偶数番号）

13:30-16:30 口頭発表，ポスター展示，機器展示

17:00-17:15 若手優秀講演賞表彰式

委員会等：

学会賞受賞候補推薦委員会	11月17日 12:00-13:00	工作実習室
講演賞選考委員会	11月17日 12:00-13:00	小会議室2
若手・女性・地域活性化委員会	11月17日 17:00-18:00	工作実習室
評議員会	11月18日 12:10-13:30	美術工芸室

国際誌編集委員会	11月19日 12:00-13:00	工作実習室
講演賞選考委員会	11月19日 12:00-13:00	小会議室2

参加費：学生会員 5,000 円，正会員 6,000 円，非会員 7,000 円，地域研究集会とシンポジウムは一般公開（参加費不要）

開催要項ウェブページ：<http://cse.fra.affrc.go.jp/abo/jsfo2017/index.html>（水産海洋学会ホームページにリンク）

問い合わせ先：大会実行委員会事務局 2017SuisanKaiyo-Hiroshima@ml.affrc.go.jp

会場までのアクセス：

JR 横川駅は JR 広島駅から山陽本線下り岩国方面 2 駅目（5 分）

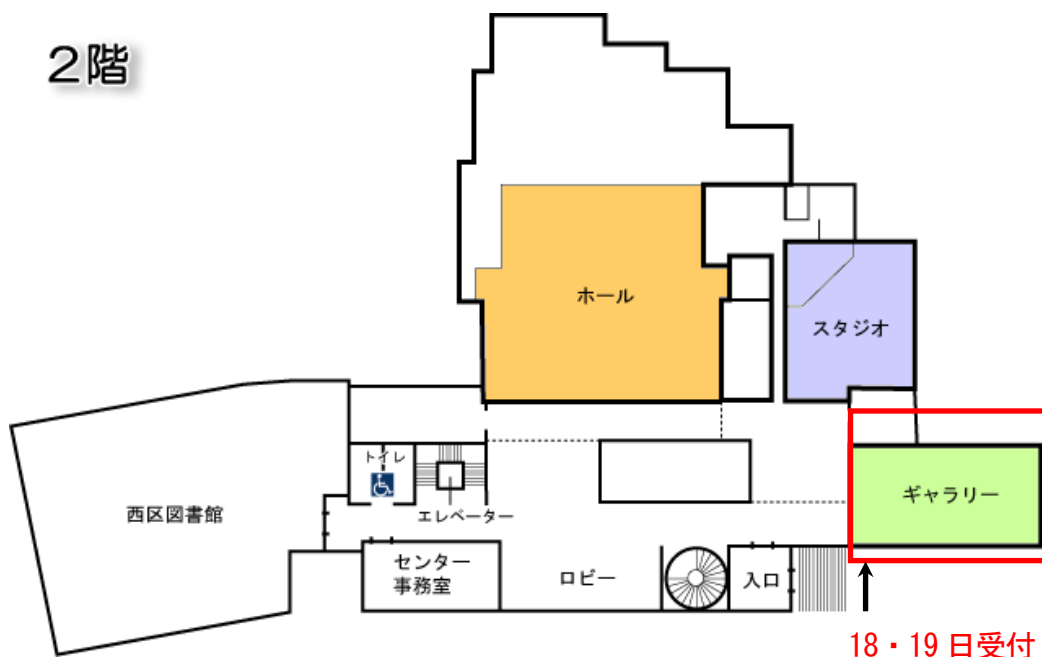


会場：

- 2 階ギャラリー：18・19 日受付，ポスター・機器展示会場
- 3 階大会議場：16・17 日受付，シンポジウム・口頭発表会場（ABC），地域研究集会会場（AB）
- 3 階美術工作室：学会賞受賞候補推薦委員会，若手・女性・地域活性化委員会，国際誌編集委員会
- 3 階工作実習室：評議員会
- 3 階小会議室 2：実行委員会控室，講演賞選考委員会

会場配置図：

2階

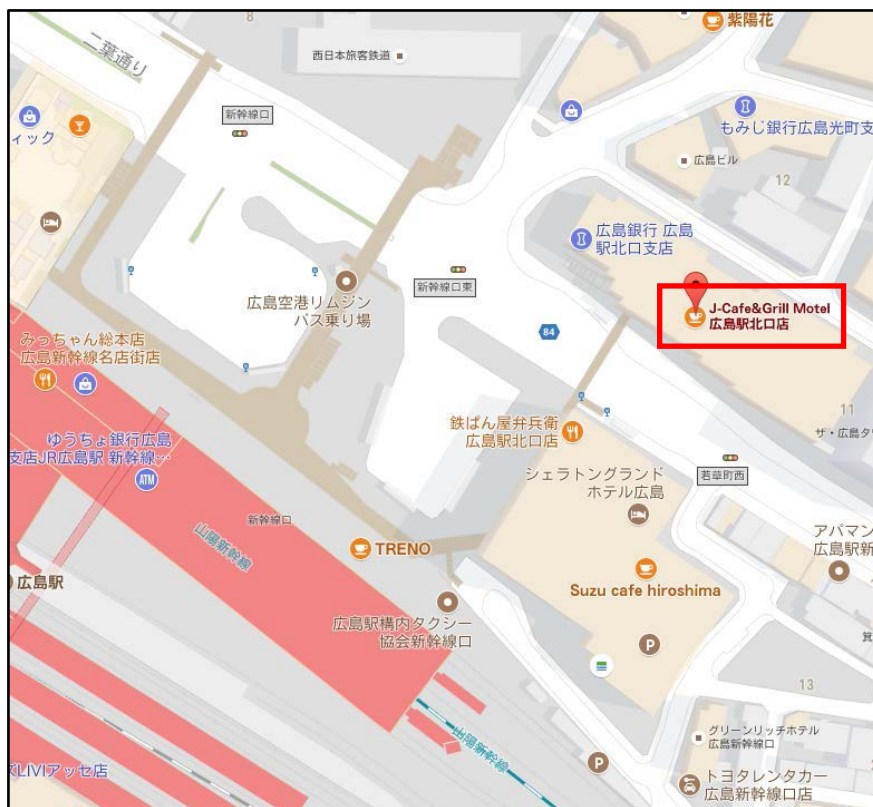


3階



*施設内では、他の団体による複数の催し物が開催されています。会場をお間違えないようご注意ください。

懇親会 : 11月18日(土) 19:00-21:00 J-Cafe & Grill Motel 広島駅北口店 (広島県広島市東区若草町11-2 グランアーケテラス3F, JR 広島駅北口から歩行者専用橋にて徒歩3分) 当日申し込みも会費6,000円で受け付ける予定ですが、人数等の関係でお断りすることがあります。



研究発表大会プログラム

口頭発表

- (1) 発表時間は、質疑応答2分を含めて1題につき12分以内です。なお、発表時には発表者の交代に要する時間を含みます。
- (2) 使用機器は液晶プロジェクターです。
- (3) Microsoft Power Point 2016 をインストールしたパソコン (OS は Windows 10) を大会実行委員会で用意します。各自で事前に Windows 10 上の Power Point 2016 で発表ファイルが正常に動作することを確認して下さい。
- (4) 口頭発表ファイルを USB メモリーに保存・持参して下さい。なお、ファイルはあらかじめ必ずウイルスチェックを行っておいて下さい。また、ファイル容量は可能な限り小さくして下さい。

- (5) 口頭発表ファイルは、次の時刻までに研究発表会場の受付にご持参下さい。その場での動作確認後、USB メモリーをお返しいたします。
- ・ 10:30 までの発表： 前日～当日の 09:30 まで
 - ・ 12:00 までの発表： 当日の 10:00 まで
 - ・ 15:00 までの発表： 当日の 12:30 まで
 - ・ 15:00 以降の発表： 当日の 14:30 まで
- (6) ファイル名は「講演番号 (半角) _名字 (漢字, 外国人は半角アルファベット) として下さい ("_"は半角アンダースコア) 。
- (7) 講演では演者ご自身にパソコンを操作していただきます。
- (8) *は若手優秀講演賞審査対象です。

11 月 18 日 (土)

海況

01. 10:00 - 10:12 大槌湾内水塊の短周期変動特性
○小松幸生 (東大院新領域、大気海洋研) ・松村俊吾 (水産庁) ・田中 潔 (東大大気海洋研)
- 02*. 10:12 - 10:24 大阪湾水温の時空間的特徴ー不等間隔時系列データからの推定ー
○秋山 諭・中嶋昌紀 (大阪環農水研)
- 03*. 10:24 - 10:36 2001 年以降の東京湾における貧酸素水塊最大規模の縮小傾向
○宇都康行・石井光廣・梶山 誠 (千葉水研セ)
- 04*. 10:36 - 10:48 伊勢湾における小型漁船による沿岸海域環境計測
○岩場公利・多部田 茂 (東大院新領域) ・濱田 孝治 (シャトー海洋調査) ・丸山 拓也 (三重県農林水産事務所) ・舘 洋・笹木 大地 (三重水研)
05. 10:48 - 11:00 黒潮流域下層水温の長期的な変動について
○謝 旭暉 (JAFIC)
06. 11:00 - 11:12 高解像度海洋循環モデルによって再現される日本沿岸域の海況変動
○高橋大介 (水産機構北水研) ・黒田 寛 (水産機構北水研・水産機構中央水研) ・瀬藤 聡 (水産機構中央水研)
- 07*. 11:12 - 11:24 黒潮による黒潮続流域表層への水塊輸送について
○峯 俊介・小松幸生 (東大大気海洋研)
08. 11:24 - 11:36 対馬海峡の栄養塩はどこから来ているのか?
○高山勝巳・広瀬直毅 (九大応力研) ・吉田尚郁 (NPEC)
09. 11:36 - 11:48 相模湾沿岸域での栄養塩類動態と植物プランクトン群集の応答

○荒 功一・島本章広（日大院生物資源）

10. 11:48 - 12:00 貧栄養化の進行する播磨灘におけるクロロフィル a 濃度の時空間変化

○宮原一隆・原田和弘（兵庫水技セ）・阿保勝之・松原 賢（水産機構瀬水研）・田所和明（水産機構東北水研）・安佛かおり（京大京大際セ）・笠井亮秀（北大院水）

12:00 - 13:40 休憩

漁況・卵稚仔

- 11*. 13:40 - 13:52 調査船によるクロロフィル a 濃度の連続測定といわし類漁場探査への利用

○宮田直幸（千葉水研セ）

12. 13:52 - 14:04 黒潮流路とマサバ産卵群の分布

○加藤正人・川島時英・石井光廣（千葉水研セ）

- 13*. 14:04 - 14:16 八丈島周辺海域におけるメダイの CPUE に黒潮流路が与える影響

○日野晴彦（都島しよ総セ八丈）・駒澤一朗（都島しよ総セ）

14. 14:16 - 14:28 漁獲尾数の予測手法の開発について

○東 明浩（みやざき県技術士会）

15. 14:28 - 14:40 鳴瀬川由来の低塩分水が松島湾内のマガキ幼生の輸送に及ぼす影響

○筧 茂穂（水産機構東北水研）・高城隆昌・岡部克顕・高柳和史（三洋テクノマリン）・横内克巳（水産機構東北水研）

卵稚仔・沿岸資源

16. 14:40 - 14:52 海底勾配が二枚貝資源の分布特性に及ぼす影響

○瀬戸雅文・大久保創平（福井県大海洋生資）・巻口範人（道栽培公社）

- 17*. 14:52 - 15:04 Effect of materials complexity of artificial reefs on fishery production - A case study in Mitsu Bay, Hiroshima

○Jamaluddin Fitrah Alam, Tamiji Yamamoto, Tetsuya Umino (Graduate School of Biosphere Science, Hiroshima University), Shinya Nakahara, Kiyonori Hiraoka (Hiroshima Environment and Health Association), Hideyuki Ohtoshi (Higashi-Hiroshima City) and Haruka Nakamura (Faculty of Applied Biological Science, Hiroshima University)

18. 15:04 - 15:16 大阪湾水深 10 m 以深の海域におけるガザミ稚ガニの出現

○大美博昭・佐野雅基・日下部敬之（大阪環農水研）

19. 15:16 - 15:28 奄美海域産スジアラの資源管理に向けた基礎生態研究1～成長と成熟～

○宍道弘敏（鹿児島水技セ）・斎藤真美（水土舎）・中川雅弘（水産機構西海水研）

20*. 15:28 - 15:40 奄美海域産スジアラの資源管理に向けた基礎生態研究2～粒子追跡モデルによる卵仔魚輸送過程の推定～

○大脇瑠莉・加古真一郎（鹿大工）・宍道弘敏（鹿児島水技セ）・広瀬直毅（九大応力研）

沿岸・沖合資源

21*. 15:40 - 15:52 亜熱帯中規模渦域におけるニホンウナギ仔魚の生息環境について

○渡辺剛（水産機構東北水研）・黒木洋明（水産機構中央水研）・長谷川大介（水産機構東北水研）・安倍大介（水産機構中央水研）・田所和明・奥西武（水産機構東北水研）・稲葉信晴（水産機構中央水研）・谷内由貴子（水産機構北水研）・児玉武稔（水産機構日水研）・岡崎雄二・桑田 晃（水産機構東北水研）・小埜恒夫（水産機構国際水研）

22*. 15:52 - 16:04 再生産関係の傾きは成熟年齢によって決まる

○田中圭・鈴木直樹・櫻本和美（海洋大）

23*. 16:04 - 16:16 スケトウダラの太平洋系群と日本海系群に共通して適用可能な再生産モデル

○金 祉潤・櫻本和美・鈴木直樹（海洋大）

24. 16:16 - 16:28 太平洋マサバ巻き網漁業における自主的管理の効果：統計手法を用いた定量的評価

○市野川桃子・岡村 寛（水産機構中央水研）

25*. 16:28 - 16:40 GISを用いた着底漁業による脆弱な海洋生態系 VME への影響予測手法の開発

○宮本麻衣・清田雅史（水産機構国際水研）

宇田賞受賞記念講演

17:15-18:00 沿岸域における漁業資源生産過程の解明と生態系機能の評価
小路 淳（広大院生物圏）

懇親会

19:00-21:00 J-Cafe & Grill Motel 広島駅北口店

11月19日(日)

卵稚仔・沿岸・沖合資源

26*. 09:30 - 09:42 マイワシ資源量と水温・産卵親魚量の関係

○西川悠 (JAMSTEC)

27*. 09:42 - 09:54 資源低水準期から増加期におけるマイワシ稚魚の孵化日、成長の変動

○上村泰洋・新野洋平・古市 生・渡邊千夏子・由上龍嗣・井須小羊子 (水産機構中央水研)

28. 09:54 - 10:06 対馬暖流域におけるマイワシ当歳魚の成長の海域間比較

○林 晃・安田十也・北島 聡・黒田啓行・高橋素光 (水産機構西海水研)

29*. 10:06 - 10:18 カリフォルニアマイワシの仔稚魚期の回遊と水温-成長関係

○坂本達也 (東大大気海洋研)・小松幸生 (東大新領域、大気海洋研)・高橋素光 (水産機構西海水研)・樋口富彦・白井厚太郎 (東大大気海洋研)・石村豊穂 (茨城高専)

30. 10:18 - 10:30 耳石酸素安定同位体比を用いたマサバの成育環境推定

○伊藤進一 (東大大気海洋研)・上村泰洋 (水産機構中央水研)・樋口富彦 (東大大気海洋研)・石村豊穂・進藤 花・西田 梢 (茨城高専)・白井厚太郎・小松幸生 (東京大学大気海洋研)・渡邊千賀子・由上龍嗣 (水研機構中央水研)

31*. 10:30 - 10:42 飼育実験と野外調査におけるマサバの鉛直遊泳行動

○安田十也 (水産機構西海水研)・長野直樹 (宮崎大農)・北野 載 (九大院農唐津水研セ)

沿岸資源・魚類

32*. 10:42 - 10:54 マサバ成長一回遊モデルを構築するための呼吸量測定実験とパラメータの推定

○郭 晨穎・伊藤進一 (東大大気海洋研)・KATHRYN A. DICKSON (California State University)・DANE H. KLINGER (Stanford University), NICK WEGNER, EMANNIS DORVAL (NOAA SWFSC)・上村泰洋 (水産機構中央水研)

33*. 10:54 - 11:06 サンマ繁殖特性の時空間変動に基づく産卵場評価

○富士泰期・巢山哲 (水産機構東北水研)

34*. 11:06 - 11:18 燧灘東部海域におけるカタクチイワシ卵密度と加入の関係

○藤田辰徳・宮川昌志 (香川水試)・米田道夫・河野悌昌 (水産機構瀬水研)・渡邊昭生 (愛媛水研セ)・村田憲一 (広島水海技セ)

35*. 11:18 - 11:30 瀬戸内海中央部の浅海域における シロギスの出現, 体サイズおよび摂餌生態

○寺田裕司・小路 淳 (広大院生物圏科)・野手健太郎 (広大院生物生産)

36*. 11:30 - 11:42 海底湧水が魚類の摂餌・成長に与える影響: マコガレイ稚魚の野外ケージ実験による評価

○藤田浩司 (広大院生物圏科)・杉本亮 (福井県大) 本田尚美 (地球研)・小路 淳 (広大院生物圏科)

37*. 11:42 - 11:54 飼育条件下におけるゴンズイの個体数と群れ構造の関係: 何個体でゴンズイ玉が形成されるか?

○内藤隆介・小路淳 (広大院生物圏科)

11:54 - 13:30 休憩

卵稚仔・沿岸資源

38. 13:30 - 13:42 東京湾におけるタチウオ若齢魚の生態に関する情報

○岡部 久 (神奈川水技セ)・斎藤真美・伊東 宏 (水土舎)

39. 13:42 - 13:54 東京湾におけるマコガレイ稚魚の移動経路

○石井光廣・三田久徳 (千葉水研セ)・児玉圭太・堀口敏宏 (国環研)・堀正和 (瀬戸内水研)・片山知史 (東北大院農)・内藤大輔 (中電CTI)

40. 13:54 - 14:06 岩手県宮古湾におけるヒラメおよびマコガレイ稚魚の摂餌と成長

○田中庸介・前田知己・清水大輔・白藤徳夫・二階堂英城 (水産機構東北水研)

41. 14:06 - 14:18 岩手県宮古湾における震災後のアマモ場とニシンの産卵場・成育場環境の特性

○白藤徳夫・清水大輔・松本有記雄 (水産機構東北水研)・村瀬偉紀 (長大院水環)・山根広大 (岩手水技セ)・渡邊良朗 (東大大気海洋研)

42. 14:18 - 14:30 混合水域における近年のマイワシ稚魚の食性

○岡崎雄二・田所和明 (水産機構東北水研)・上村泰洋・日高清隆 (水産機構中央水研)

沿岸・沖合資源・魚類

43. 14:30 - 14:42 近年の資源増加期におけるマイワシの成熟状況

○渡邊千夏子・上村泰洋・古市 生・由上龍嗣・井須小羊子 (水産機構中央水研)

44. 14:42 - 14:54 マイワシの繁殖特性に及ぼす母性年齢の影響

- 米田道夫（水産機構瀬水研）・入路光雄（水産機構中央水研）・津崎龍雄・中村政裕（水産機構瀬水研）・濱岡秀樹（新潟水海研）
45. 14:54 - 15:06 日本海における近年のブリ成魚の成長低下
○辻 俊宏（石川水総セ）
46. 15:06 - 15:18 飼育ハタハタの成長と生残
○甲本亮太（秋田水振セ）・飯田新二（男鹿水族館 GAO）・宇井賢二郎（マリホ水族館）・田口清太郎・青山晃大（男鹿水族館 GAO）
47. 15:18 - 15:30 シロウオ雄の複数回繁殖の可能性について-水槽実験による検証
○長谷川拓也・小路 淳（広大院生物圏科）
48. 15:30 - 15:42 環境 DNA 法による高精度魚類相データをもとにした海洋保護区設計-対馬市の事例
○清野聡子・會津光博（九大・工）・宮正樹・佐土哲也（千葉県博）
49. 15:42 - 15:54 黒潮親潮移行域におけるカツオ来遊量変動と海洋環境の関係
○奥西 武（水産機構東北水研）・清藤秀理・増島雅親（水産機構国際）・瀬藤 聡（水産機構中央水研）
50. 15:54 - 16:06 画像認識的アプローチによるアカイカ漁場推定手法の開発
○飯山将晃・趙 詣・笠原秀一・橋本敦史（京大）・五十嵐弘道（JAMSTEC）・齊藤誠一（北大）・美濃導彦（京大）
51. 16:06 - 16:18 階層ベイズ型空間モデルによるハナゴンドウの個体数推定
○金治 佑（水産機構国際水研）・Tim Gerrodette（NOAA 南西水産科学センター）
52. 16:18 - 16:30 Ecopath with Ecosim による北西太平洋広域の高次捕食者を主対象とした生態系モデルの構築
○村瀬弘人（水産機構国際水研）・田村 力・袴田高志（日鯨研）・亘 真吾（水産機構中央水研）・岡崎 誠・清藤秀理・米崎史郎（水産機構国際水研）・北門利英（海洋大）

若手優秀講演賞表彰式

17:00-17:15

ポスター発表

ポスター掲示期間：11月18日10:00～19日17:00

発表者立会説明：11月18・19日12:20-13:20

- (1) A0サイズのポスターを貼り付けられるスペースと画鋏などを用意いたします。

- (2) ポスターの貼り付けは、11月18日10:00から可能です。
- (3) 11月18日12:20-13:20に奇数の講演番号、11月19日12:20-13:20に偶数の講演番号の立会説明をお願いいたします。
- (4) 11月19日17:30までに各自で撤収して下さい。これ以降に残されたポスターは実行委員会で処分いたします。
- (5) *は若手優秀講演賞審査対象です。

- P01*. 非線形時系列解析による宍道湖における塩分変動要因の解明
○塚川絢斗（北大院水）・川津一隆（龍谷大）・勢村 均（島根水技セ内水面浅海部）・笠井亮秀（北大院水）
- P02. 東北太平洋における沿岸水温とマイワシ・さば類定置網水揚時期の緯度変化
○横内克巳・奥西 武・長谷川大介・笥茂穂（水産機構東北水研）・今村豊（青森水総研）・児玉琢哉（岩手水技セ）・佐伯光広（宮城水技セ）・真壁昂平（福島水試）・鈴木裕也（茨城水試）・東屋知範（水産機構北水研）
- P03*. Ra 同位体を用いた海底湧水量評価 -瀬戸内海沿岸域における事例-
○中島壽視・竹内優・富永修（福井県大海洋生資）・本田尚美・谷口真人（地球研）・小路淳（広大院生物圏科）・杉本亮（福井県大海洋生資）
- P04. 底入り潮に増進された伊万里湾における *Karenia* 赤潮
○青木一弘（水産機構中央水研）・黒田 寛（水産機構北水研）・瀬藤 聡（水産機構中央水研）・山砥稔文・平江 想（長崎水試）・吉田賢二・三戸谷勇樹（佐賀玄海振興セ）
- P05*. 若狭湾およびその沖合海域における栄養塩とクロロフィル a 濃度の季節変化
○理塚隆人・杉本亮・片岡剛文・兼田淳史（福井県大）、山下慎也（福井水試）
- P06. 日向灘の沿岸資源変動における豊後水道の重要性
○渡慶次 力・井上海斗・中西健二（宮崎水試）
- P07. 道東沿岸陸棚域における沿岸捕捉波に起因する日周潮流
○黒田 寛（水産機構北水研）・日下 彰（水産機構中央水研）・磯田 豊（北大院水産）・本田 聡（水産機構本部）・伊藤 明・鬼塚年弘（水産機構北水研）
- P08. 定置網における”ぶり”入網尾数の法則性
○長谷川雅俊（静岡水技研伊豆）・影山佳之（元静岡水技研）
- P09*. 耳石酸素安定同位体比を用いたマアジ稚魚の近底層移行時期推定の試み
○榎本めぐみ・伊藤進一（東大大気海洋研）、高橋素光・佐々千由紀（水産機構西海水研）、坂本達也・樋口富彦・白井厚太郎（東大大気海洋研）

- P10. 相模湾沿岸域での微小プランクトン食物網の構造と栄養動態
○島本 章広・荒 功一 (日大生物資源)
- P11*. Increase of nutrient load may enhance the oyster larvae recruitment in Hiroshima Bay
○Wahyudin, Tamiji Yamamoto (Department of Environmental Dynamics and Management, Hiroshima University)
- P12. 東シナ海におけるマアジ仔稚魚の成長速度と餌料環境との関係
○高橋素光・佐々千由紀・西内 耕 (水産機構西海水研)・塚本洋一 (水産機構北水研)
- P13*. マサバ仔魚の遊泳速度に及ぼす母性年齢の影響
○中村政裕・米田道夫・津崎龍雄 (水産機構瀬水研)・入路光雄 (水産機構中央水研)
- P14. 知床半島羅臼町沿岸におけるミズダコの抱卵巣穴の環境条件
○佐野 稔 (道総研稚内水試)・関 勝則 (知床ダイビング企画)
- P15*. マサバ太平洋系群の加入に関わる水温と黒潮流路の変動
○金子 仁・奥西 武 (水産機構東北水研)・瀬藤 聡 (水産機構中央水研)・黒田 寛 (水産機構北水研)・伊藤幸彦 (東大大気海洋研)・瀨瀬慎也 (JAMSTEC-RCGC)・長谷川大介 (水産機構東北水研)
- P16. 漁協取引実績から見た雌ズワイガニ甲幅組成の経年変化
○森山 充・家接直人 (福井水試)
- P17*. 仙台湾におけるスズキの卓越年級群の形成と要因
○外館香那 (北大院水)・富士泰期 (水産機構東北水研)・青木貴志 (東京都)・高林長将 (マルハニチロ)・曾我部共生 (元京大院農)・鈴木勇人 (水産機構東北水研)・Veronica Chiang (京大フィールド研セ)・栗田 豊 (水産機構東北水研)・山下洋 (京大フィールド研セ)・笠井亮秀 (北大院水)
- P18. 欠
- P19*. 東北太平洋岸アマモ場における魚類群集の津波前後 (2009-2017) の変化
○吉川俊太郎 (広大生生)・中野 光・小路 淳 (広大院生物圏科)
- P20. Assessment of lobster and octopus fishery trends and environmental variability along the Kenyan south coast
○Charles Odindo, Naoki Suzuki (TUMSAT)
- P21*. 瀬戸内海中央部のアマモ場におけるクロダイの出現
○野手健太郎・吉川俊太郎・森田拓真・小路淳 (広大生物生産学部)
- P22. 欠

P23*. 温泉排水が魚類の出現に与える影響：別府湾における夏期・冬期のデジタルカメラ解析

○中尾翔平・宇都宮達也・小路淳（広大院生物圏科）

P24. 欠

P25. 漁業者の行動における3つのあたらしい視点

○大西修平（東海大院海洋）・山川 卓（東大院農）・赤嶺達郎（水産機構中央水研）

P26. トラフグ親魚再放流試験による産卵成功への効果の検討

○平井慈恵（水産機構瀬水研）・赤井紀子（香川水試）・戸田慎平・片町太輔（水産機構瀬水研）・沖田光玄（水産機構西水研）・Sara Gonzalvo・森 航大・高柳和史（三洋テクノマリン）

P27. 備讃瀬戸東部に来遊したトラフグ親魚の近年の水揚げ動向

○赤井紀子（香川水試）・平井慈恵（水産機構瀬水研）・沖田光玄（水産機構西海水研）・戸田慎平・片町太輔（水産機構瀬水研）